

2018 年度前期 授業改善アンケート集計結果に対するコメント

—経済学研究科—

経済学研究科長 岩崎 尚人

大学院の学生による授業改善アンケートの本年度前期の結果は、総合的評価が 4.87 であることから、例年同様に、概ね高い評価レベルにあると思われる。

「教員は発言・議論等授業参加を積極的に促した (4.78)」、「教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった (4.88)」、「教員は教室内が学習にふさわしい状態に保たれるよう心掛けた (4.81)」などの諸点でも高く評価される傾向にあり、教員がアクティブ・ラーニングを採用するなど教授法の一層の改善の成果であると考えられる。

今回のアンケートから導入された調査項目である授業手法 (Ⅲ) および資質・能力の向上 (Ⅳ) の結果を見ると、大学院の授業では、質疑応答 (79.8%) やディスカッション (48.1%) が広く行われ、学生は専門分野の知識・学力 (89.1%) だけでなく、論理的思考力 (56.6%)、構想力 (43.4%) や課題発見力 (41.9%) など身につけていることがうかがわれる。

今後も、授業改善アンケートの結果に留意しつつ、より充実した授業を行っていくことが望まれる。